

女性に選ばれるまちの構築

高山市議会公明党

中 箴 博 之



問 飛騨地域は女性の帰還率が男性の半分だと指摘されるが、女性から選ばれるまちの構築に向け、前例踏襲の社会の仕組みをジェンダーの視点で深掘りし、職場・地域・家庭・学校等、まち全体を対象にした市独自の「ジェンダーギャップ解消戦略」を策定して取り組む考えは。

答 市では総合計画に掲げる重点戦略に基づき、様々な主体と連携しながらジェンダーギャップの解消に取り組むこととしており、女性をはじめ誰もが自分らしく生きられる社会の実現を目指していく。



人口減少時代の文化継承—地域の祭礼や郷土芸能を守るには

あかつき

戸 田 柳 平



問 高山祭や伝統的建造物群保存地区の保存継承が重要である一方、地域の祭礼や郷土芸能、山村文化、信仰文化など、市域全体の文化継承については、人口減少や広大な市域といった課題もある。市として、どのような課題認識を持ち、今後どのように支援していく考えか。

答 少子高齢化や人口減少に伴う後継者不足、保存に向けた改修費用の負担などにより、これまでと同じ形で文化を継承することが難しくなっていると認識している。行政だけでなく、市民や保存団体など関係者と連携し、情報発信や支援の確保に努めながら、歴史文化資源の継承に取り組んでいく。

公共施設の照明蛍光ランプのLED化について

あかつき

水 野 千 恵 子



問 2027年末までに一般照明蛍光ランプの製造、輸出入が禁止になり早期のLED化が推奨されている。しかし器具ごと交換の場合は経費もかかるが現在の市有施設のLED化率はどのようになっているか。また各町内の公民館等避難所となる施設のLED化に対する補助の考えは。

答 現在の施設のLED化率は約31%で、今後5～6年かけて順次整備していく予定。多額の経費が必要となるため計画的な更新を進めていく。町内集会施設の改修に対しては防災機能強化や、安全性確保を優先してきたことから、LED化については補助対象としていなかったため、今後検討していく。



医療提供体制の充実に向けた展望について

あかつき

西 本 泰 輝



問 市長は、「飛騨地域に住んでいることで、失われる命や健康があってはならない」という熱い思いを語り、「医療には妥協しない」という信条のもと、地域医療の充実に努められてきた。医療提供体制の充実に向けた今後の展望についての市長の考えは。

答 中核病院の高山赤十字病院と久美愛厚生病院を「飛騨高山医療センター（仮称）」として機能の一つにまとめ、医師や看護師、専門スタッフという宝を最大限に生かして、効率的で質の高い医療を安定して受けられる仕組みをつくる。すでに、両病院長や日本赤十字社医療事業推進本部、JA岐阜厚生連、岐阜大学といった関係機関のトップと面談し、協力して進める合意を得ている。